

LNG市場の動向について

2022年11月21日 資源エネルギー庁

世界で激しさを増す「LNG争奪戦」

- 中国や韓国は、脱炭素化の取組と並行し、エネルギー安定供給のための国家戦略に基づき、国営企業を中心に、LNGの長期契約の締結を進めている。欧州でも足下の危機を受けて新たなLNG契約に向けて、政府が積極的に関与している。
- 2026年まで、安定した価格(油価リンク)で供給を開始できる長期契約は全て売り切れている。

<中国が2021年以降締結した米国LNG売買契約>



中国は2021年に、**米国企業と約1,400 万トンの長期契約を締結。**その多くが **2024年~2025年頃に生産を開始**される予定。(JOGMEC調査)

<欧州の新たなLNG調達計画>



EUは、本年3月にRe Power EU計画と呼ばれるエネルギー政策方針を発表。EUでは今後、3,680万トンのLNG追加需要が見込まれる。2022年以降、EU全体のLNGの輸入量は年間1億トン以上の規模となる。

<韓国国営企業KOGASとカタールの長期契約>



KOGAS

韓国のエネルギー省は、**カタールと2025 年から20年間のLNG供給契約**に調印した と発表。韓国の国営企業であるKOGASは、 **年間200万トンのLNGを購入する予定**。 (2021年7月12日: ロイター)

<欧州の資源国への交渉状況一例>





ドイツ、カタールとガス長期供給合意 脱ロシア 依存で(3月21日: Financial Times)ドイツは ロシアに代わるエネルギーの供給国として、中東 のカタールからLNGの供給を受ける長期契約で合 意したと発表した。

→その後、供給期間の意見の相違により、交渉は 難航。

https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB220RD0S2A320C2000000/

<日本企業の声>



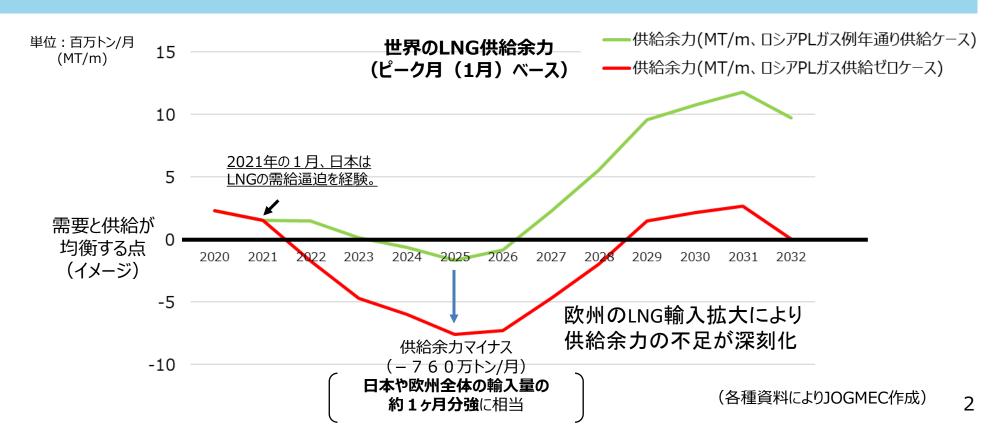
現状2026年までに供給を開始できる長期契 約は全てSold Outと言ってよい。LNGの調 達環境は一変。調達も戦時状態と言える。



イタリア、アルジェリアと天然ガス供給拡大で合意(4月12日:日経新聞)イタリアのドラギ首相は11日、北アフリカのアルジェリアと同国からの天然ガスの供給拡大で合意したと発表した。

世界のLNG供給余力の状況

- 過去のLNGプロジェクトへの投資の減少を反映して、2025年に向けて、世界のLNG供 給余力は減少。プロジェクトのトラブル(米国やマレーシア等)によるリスク</u>も存在。
- これに加えて、欧州向けロシアパイプラインガスの供給減と、欧州の域内LNG受入れ キャパシティ拡大により、欧州は来年以降、今以上にLNG輸入を拡大する見通し。
- その結果、世界のLNG需要と供給能力の差は、2025年に向けて大きく拡大し、 LNG供給余力が減少。グローバルな「LNG争奪戦」がより過熱する可能性が高い。



【参考】直近のLNG価格の推移

